

令和5年度 町民大学入試問題？

絵本の絵が変わることがある、そんな不思議な話です。

1. 祖父と小学校3年生の太郎の会話と資料を読んで、問いに答えなさい。

太郎：じっちゃん。今日の宿題は本読みなんだ。聞いてくれる。

祖父：ああ、いいよ。読んでごらん。あれっ、その話知っているよ。『モチモチの木』だろう。絵本で読んだよ。じさまと豆太の話だね。滝平二郎さんの絵がすてきだったよ。でも変だね。豆太がお医者さんと呼ばれに行ったときの絵は、「三日月」だったと思うけど、太郎の教科書では、「二十日の月」が描いてあるね。

太郎：じっちゃんの勘違いじゃないの。

祖父：50年も前だけれど、その絵ははっきりと覚えているよ、一緒に調べてみようよ。

【資料1】中央公民館図書室にある、絵本『モチモチの木』岩崎書店1977年改訂版から「シモ月二十日のウシミツにゃア、モチモチの木にひがともる。おきてて見てみる、そりゃア、キレイだ。おらも、こどものころに見たことがある。しんだおまえのおとっもみたそうだ。山のかみさまのおまつりなんだ。それは、ひとりのこどもしか、みることはできねえ、それも、ゆうきのあるこどもだけだ」 注：霜月（11月の古いよび名）、ウシミツ（真夜中の事）

※ 太郎の教科書と同じ、二十日の月が描かれていました。そこで、『モチモチの木』1971年の初版を県立図書館から取り寄せてもらいました。

【資料2】1971年初版

「シモ月のミッカのウシミツにゃア、モチモチの木にひがともる。おきてて見てみる、そりゃア、キレイだ。・・・（あとの文章は同文）」 注：ミッカ（三日）

※ 祖父の言う通り、絵本のP.23とP.29には、三日月が描かれていました。

問1 「ウシミツ時に三日月が上がるのはおかしい」と指摘があり、1977年の改訂版では絵と文が二十日の月に書き換えられました。その理由を考えなさい。（解説はウラ面）

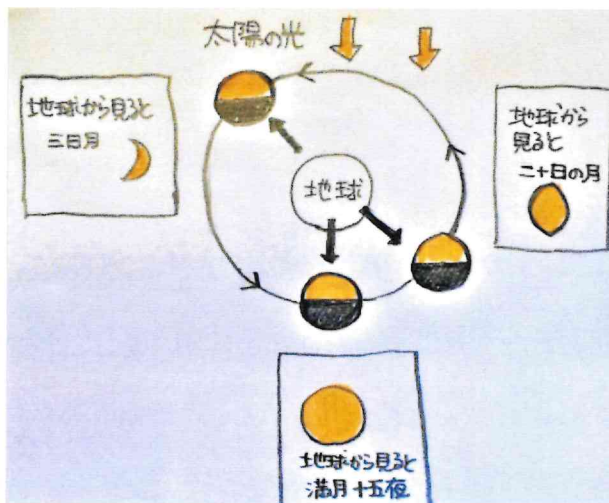
この時、滝平二郎さんは、三日月の原画を捨てようとしたが、妻に、捨てるなら私にくださいと言われ、落款とサインをして渡したというエピソードが残っています。

【解説】

まず三日月について考えてみます。三日月は、初月（はつづき、ういづき）、若月、眉月ともいわれます。三日月より早い二日の月は、纖月といいます。日没後1時間ほど、西の空にうっすらと繊維のような細い月が見えるので、纖月といいます。あまり気づくことはありません。私たちがよく気づくのは三日月で、最初に見える月、初月ということになります。三日月は、日没後2時間ほどで沈んでしまいます。

さて、ウシミツ時とは、何時でしょうか。日本には、数字を表す時刻の他に「延喜法」と呼ばれる時間の表示があり、丑の刻は、午前1時から3時ということになります。ウシミツは丑三つ時で、丑の刻を4等分した3番目の時刻の事です。つまり、午前2時から午前2時30分の時刻ということになります。注意書きにもありますが、まさに真夜中「草木も眠る丑三つ時」ということになります。よって、三日月はウシミツの時刻には、沈んでしまっているということになります。そのため、霜月の丑三つ時の月を三日月から二十日月に改められたと考えられます。また、二十日月は更待月ともいわれ、夜更けに上るのでこの名前が付いたといわれます。だいたい午後10時ごろに月の出となります。

ちなみに、令和4年の霜月に当てはめてみると、11月14日が二十日月で、東京の月の出が午後9時01分、月の入りが午前11時20分でした。また、三日月は11月27日で、月の出が午前11時03分、月の入りが午後7時33分でした。



月が地球の周りを公転するにつれ、太陽の光に照らされている部分も変わります。太陽の光が月に対して同じように当たっても、地球から見たときに、月が太陽に対してどの方向にあるかによって、照らされる部分、つまり月の見え方（月の形）は異なります。左の図は、地球から見える三日月の方向と二十日月の方向を示したものです。まるで月が満ちたり欠けたりしているように見えるこの変化を「月の満ち欠け」といい、ほぼ1か月の周期で繰り返されます。

今回は入試問題の形にしましたが、何といたっても絵本『モチモチの木』を手にとってほしいと思いました。初版、改訂版ともに中央公民館図書室にあります。

がんばったね、豆太！

（令和5年2月13日）